

## 「愛語回天」・③

### 1. 友人の愛語

2回にわたって愛語回天を書いて来ましたが、サラリーマン時代からの仕事を通じて得た「愛語」を書いて来たのですが、最後に友人から頂いた愛語をご紹介します。

#### ・「とっちゃん、人生は2度ないで」

私は前にも書きましたが故福井社長のトヨタオート大阪に就職して、福井社長や十河専務に可愛がって頂いて「クルマが売れるコンピュータ」を永遠のテーマに活動したのですが、平成4年に転機が来たのです。一つは、家庭的に共働きだったので子供たちを放ったらかしにしていた面があり、長男が中2、次男が中1、三男が保育所という状況でしたが、次男の通信簿を見ると1学期の出欠状態が非常に悪く、殆どが遅刻か欠席という事が判明したのです。OJTで会社の人材育成を出来ても自分の子が困った状態だったのです。お盆休み前に、経営企画室長から業務課長を命ずという辞令が出て、仲良しだった課長2人も本社から放出されるという人事があったのです。まあ、一つの社内紛争があり、政治力で負け組になったのもあったので、とにかく、「自分の道を歩みたい」という辞表を出して退職し、関連会社に再就職したのです。この時、後押ししてくれたのが友人で「人生は2度ない」という言葉だったのです。結構な高給(年収900万円)を頂いていたのですが、その他にも事情があったのですが福井社長に「社長はクルマの道、私はシステムの道を歩みたい」という主旨の辞表を出したのです。結果的には、長男は博士を取得して大手企業で研究職、次男はおお客様の会社で営業、三男は自社でシステム開発となり、お蔭で67才になり、年金や基金も頂き、その上、4人の孫に恵まれているので、よかったです。

#### ・「私が元気なうちに」

これは、亡き妻の言葉です。前述の決断する時に、高給を手放すので妻に相談した時の言葉なのです。妻は小学校の教員だったので、安定した給与があったのです。関連会社に行くと言っても給料はダウンする不安があったのです。共働きだったから出来た転機だったと言えます。妻には、関連会社で在職中に、「思うことが出来ないので、将来、コンサルタントになりたいので、船井総研で勉強したい」と言った時にも賛成してもらい、関連会社で3年勤務した後、船井総研の客員経営コンサルタントの資格を頼りに独立起業する際も同じように賛成してくれました。ホンマに「私が元気なうちに」という言葉でした。お蔭様で収入が途絶えた訳ではなかったのですが、男としての自尊心はありますが、2つの財布が頼りだったので給料の殆どを使い、貯金はなかったのが実情でした。今、妻が生きていたら年金もダブルなので結構な感じですが、そうは問屋が卸さないのですね、先に旅立ってしまいました。

#### ・「国物が新しい事を始める」

これは平成元年に経営企画を担当して、役員から「仕事をせんでも良いから大きな事を考え」と命じられた時に、トヨタ自動車システム部の内山課長に挨拶と相談の電話を入れた時に頂いた言葉でした。当時、トヨタの国内販売が、毎年、伸び続け300万台に達する勢いがあった時で、バブル崩壊を予期したかのように、販売店がドンドン営業所を増やすのに危機感を持っていたのです。トヨタは関連工場には改善チームを派遣していたのですが、販売店は地元資本の経営なので手を出して来なかったという経緯があったが、禁を破ってトヨタ方式の物流改善を販売店に導入すると決めたのです。このタイミングで内山さんから教えて頂いて、オート店系列のモデル店に立候補して約4年間、国内物流部の改善チームとお付き合いしたのです。唯一コンピュータを使う方式で物流改善のモデル試行して、この事例からC90システムに反映された部分が多分にあるのです。何しろ、システムを使うので営業マンの我儘が通らず、しかも、継続力があったので、彼らも驚いたのです。

### ・「岐路に立ったら難しい方を選ぶ」

上記の物流改善のモデル店になった時に、最初に指導して下さったのが鏝本課長だったので、トヨタ方式を座学で計4回教えて下さり、その間に「社内の機運が高まらない」と悩みを打ち明けた時に、ハンカチを広げて「中心は社長として、栩野さんはどこのあたりか」と聞かれて、「もし、端の方にいるとしても貴方が立ち上がるとこのように周囲を巻き込んで行くよ」とハンカチを引き上げて全体が上がる事を教えて下さったのです。その鏝本さんは、私たちが最後の指導で、豊田通商に転籍されたのですが、この時、「工場ではない商事会社に行くが、迷った時は、より難しい方を選ぶ」とおっしゃって、覚悟を決めて転籍されたのです。この言葉は、私の判断基準として心に響き、今も守っている心算です。

### ・「この子は書き物か何かで出世する」

これは母が私に暗示にかけたものです。父は燃料商で夏場の稼ぎが少なかったので、母がお好み焼き屋をして私たちを育ててくれたのですが、火を扱うので宝塚の三宝荒神を信心していたのです。小学校の低学年の時、いつものように三宝荒神のお参りから帰って来たら、易者に見てもらったら「この子は書き物か何かで出世する」と出たと教えてくれたのです。この「出世する」が心に残っているのですが、「何か」が分からないままだったのです。しかし、故福井社長に出会いコンピュータを通して社内のOJT活動をするなどの道歩み、その後、船井総研と出会い独立起業して今日に至っているのです。今から思えば、「何か」はコンピュータであり、「書き物」はこの記事などの事だったと振り返っています。「コンピュータ」と「文才」だったと思います。

### ・「栩野さんは頭が良すぎる」

これは、独立起業した時に、サラリーマン時代にお付き合いがあった富士通系代理店のKCSにおられた角谷課長の言葉だったのです。当時PL法が始まった時だったので、KCS主催のPL法セミナーを手伝う話を水島支店長から頂いたのです。実務的には、水島さんの部下だった角谷課長にお世話になったのですが、彼がいろいろと話すと私が先回りした返事をするので「栩野さんは頭が良すぎる」と言って、そこまで言及する心算はないとおっしゃったのです。この「先回り」する癖は今もあるのですが、この角谷さんの言葉で表現を変えるようにしたのです。これは、コンサルとしての活動でも生きており、役立っています。

### ・「栩野さんが幸せになる為に」

これは平成4年に関連会社に転籍する際に、UOSでお世話になったキョーラクの辻専務に相談した時に頂いた言葉です。ほぼ関連会社に行く心算でいたのですが、辻さんにも相談したのです。やはり、人生は2度ないので選択肢が欲しかったのです。キョーラクさんは、その後、本体から分離してキョーラクシステムクリエート(株)になっておられますが、当時は、本体の社内で活動されていたのです。従って、43才になる私を中途採用するのは、かなり困難な面があったので、他社への働きかけをして頂いたのです。その原動力となったのが「栩野さんが幸せになる為に」という言葉だったのです。その後、顧問契約して頂いたり、山口君を雇って頂いたりと本当に私たちが可愛がってくださった大恩人なのです。この「〇〇さんが幸せになる為に」は今も心に残っております。

## 2. 幸せな人生

3回にもわたって「愛語」を書いて来ました。この他にも私を思ってくれて下さった言葉があり、本当に「幸せ」な人生を送って来れたと感謝しています。満67才になりましたが、こんな風に回顧できる事が何よりの幸せと喜んでいきます。こんな棚卸でしたが、皆様にもお薦めします。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> あります！】